



<N0212>

## ネムノキ(合歡木)

名前の由来は複葉(葉脈が主軸から枝分かれし多数の小羽状葉からなる葉)の羽状部分が、夕方になると重ね合わさって葉を閉じてしまうことを「眠る」ことに見立てたものである。

花は花弁が発達しないで糸状の雄しべが長く伸び花を目立たせている。花全体は繊細な感じだが香りもあり、昆虫や人目を引きつけるには十分である。

丘陵地の雑木林や新しく作られた道路の法面などに生えるが、最近では中津川の河川敷でも見かけるようになってきている。

春の芽吹きは5月末ごろと、冬の眠りから覚めるのも遅く、枝は少ないが太く、葉は細かな複葉で林中にあつては特異な樹姿をしているので花の時期以外でもすぐに見分けられる。

扁平な種子が10個ほど並んで膨らんでいる10cm程の豆果(豆のさや)が落葉後の梢に残っていることがあり晩秋の風景の一つとなっている。マメ科、落葉高木。